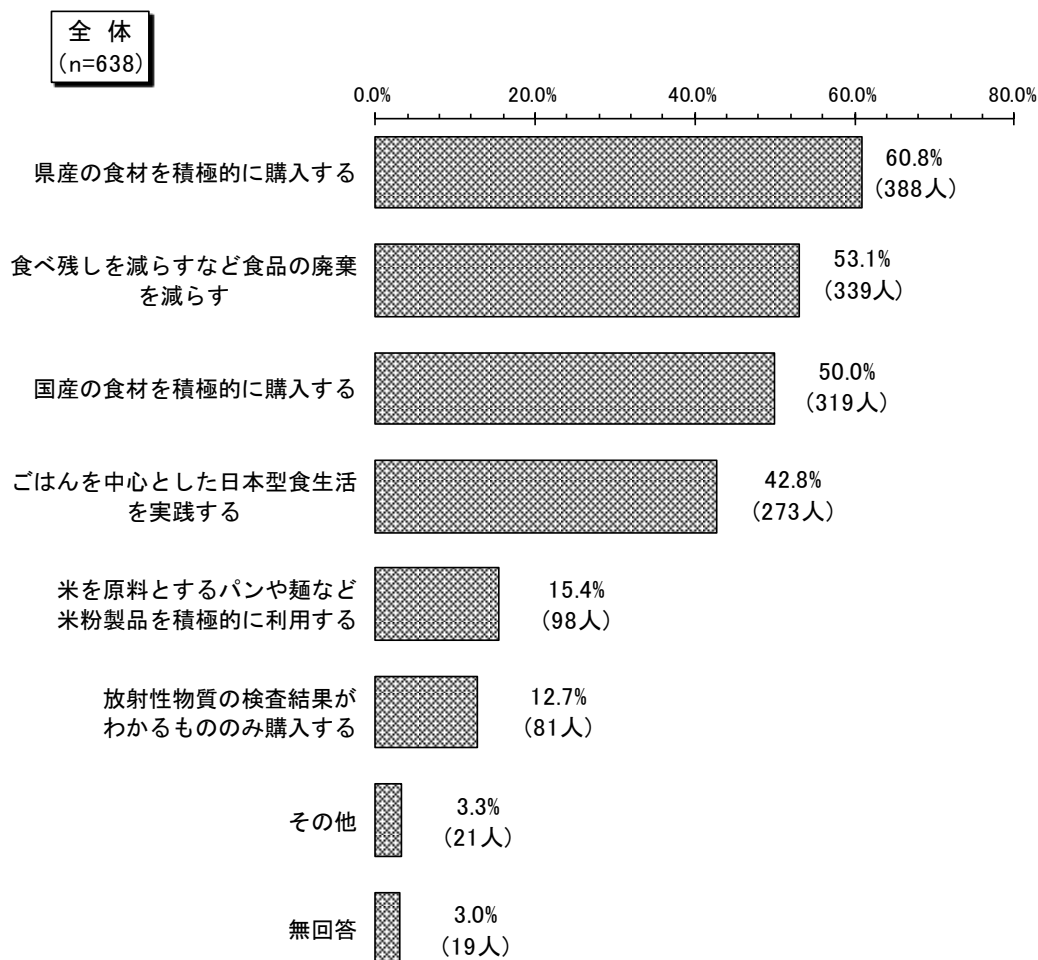


5. 農林水産業について

(1) 農林水産物の購入や食生活で実践しているまたは実践したいこと

問12 震災後、あなたが農林水産物の購入や食生活において、以下の行動のうち実践しているまたは実践したいと考えていることはありますか。

あてはまるものにいくつでも○をつけてください。(複数回答可)

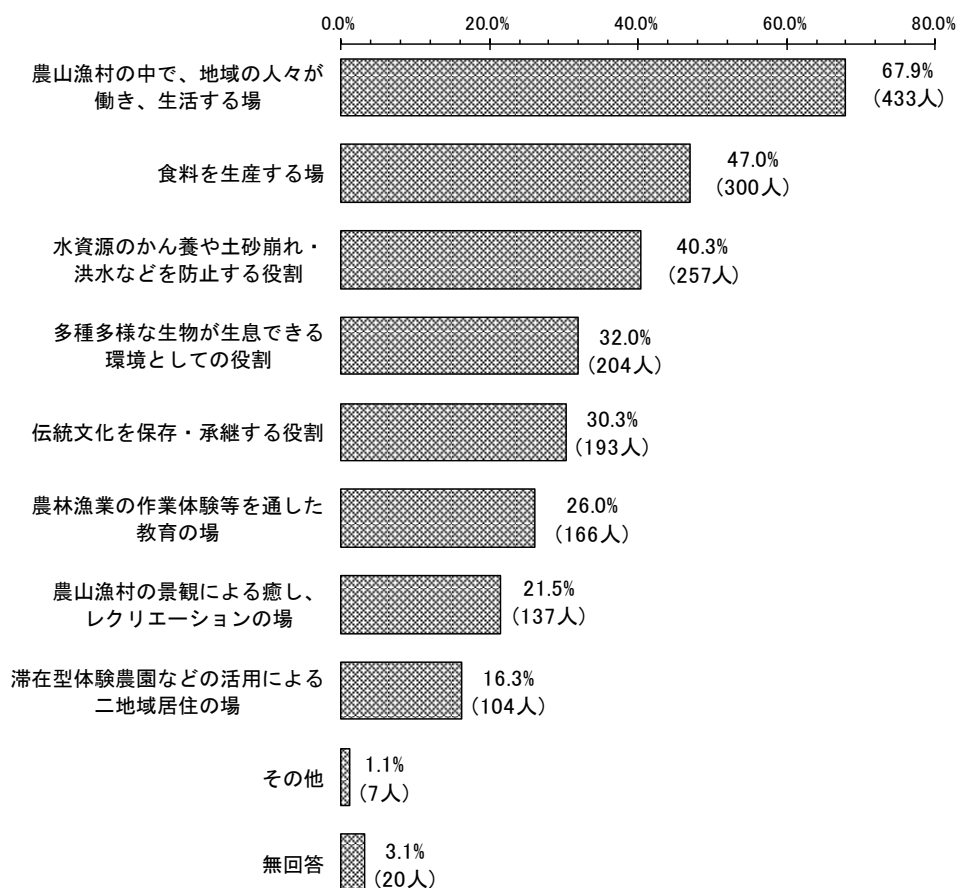


震災後、農林水産物の購入や食生活で実践しているまたは実践したいことは、「県産の食材を積極的に購入する」(60.8%)が多く、約6割となっている。以下、「食べ残しを減らすなど食品の廃棄を減らす」(53.1%)と「国産の食材を積極的に購入する」(50.0%)が5割台、「ごはんを中心とした日本型食生活を実践する」(42.8%)が4割台となっている。

(2) 農山漁村の役割として期待すること

問13 あなたが本県の農山漁村の役割として期待することは何ですか。
 あてはまるものにもいくつでも○をつけてください。(複数回答可)

全体
 (n=638)



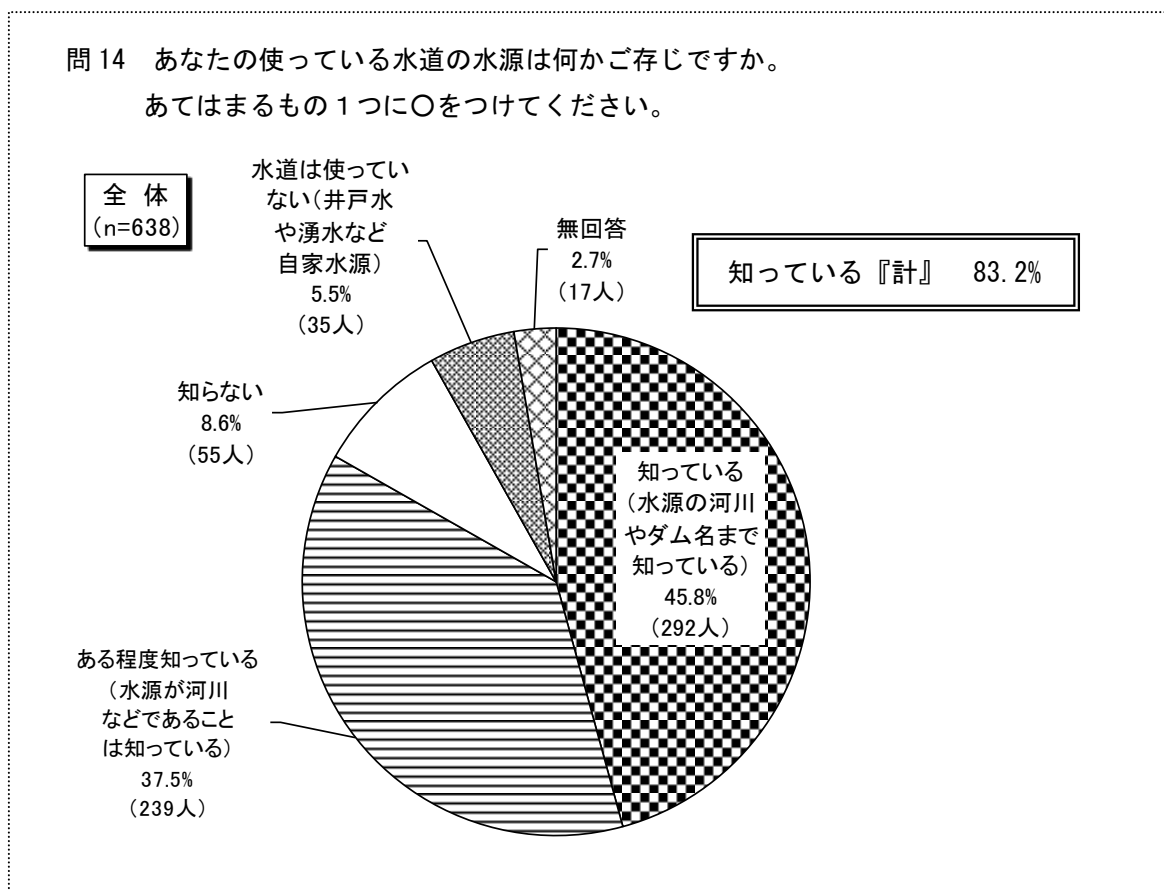
農山漁村の役割として期待することは、「農山漁村の中で、地域の人々が働き、生活する場」(67.9%)が最も多く、6割を超えている。以下、「食料を生産する場」(47.0%)と「水資源のかん養や土砂崩れ・洪水などを防止する役割」(40.3%)が4割台、「多種多様な生物が生息できる環境としての役割」(32.0%)と「伝統文化を保存・承継する役割」(30.3%)が3割台、「農林漁業の作業体験等を通じた教育の場」(26.0%)と「農山漁村の景観による癒し、レクリエーションの場」(21.5%)が2割台となっている。

6. 水に関する意識について

(1) 水道の水源の認知状況

問 14 あなたの使っている水道の水源は何かご存じですか。

あてはまるもの1つに○をつけてください。

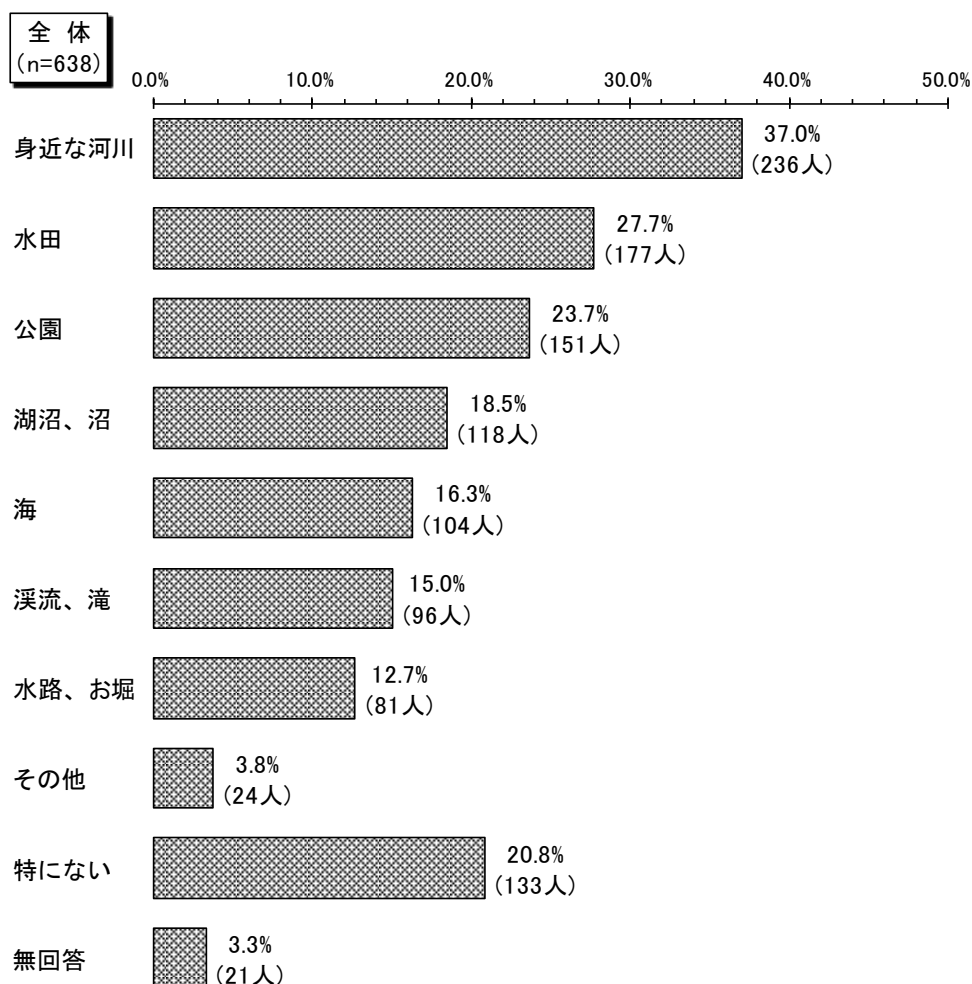


水道の水源の認知状況は、「知っている (水源の河川やダム名まで知っている)」(45.8%)の割合が最も多く、4割台になっている。これに「ある程度知っている (水源が河川などであることは知っている)」(37.5%)を合わせた『知っている』計の割合は83.2%となり、8割を超えている。

(2) 震災後、水に親しむ場所

問 15 あなたは、震災後、どのような場所で水に触れて水と親しんでいますか
(水遊びや魚釣りなどを含む)。

あてはまるものにいくつでも○をつけてください。(複数回答可)



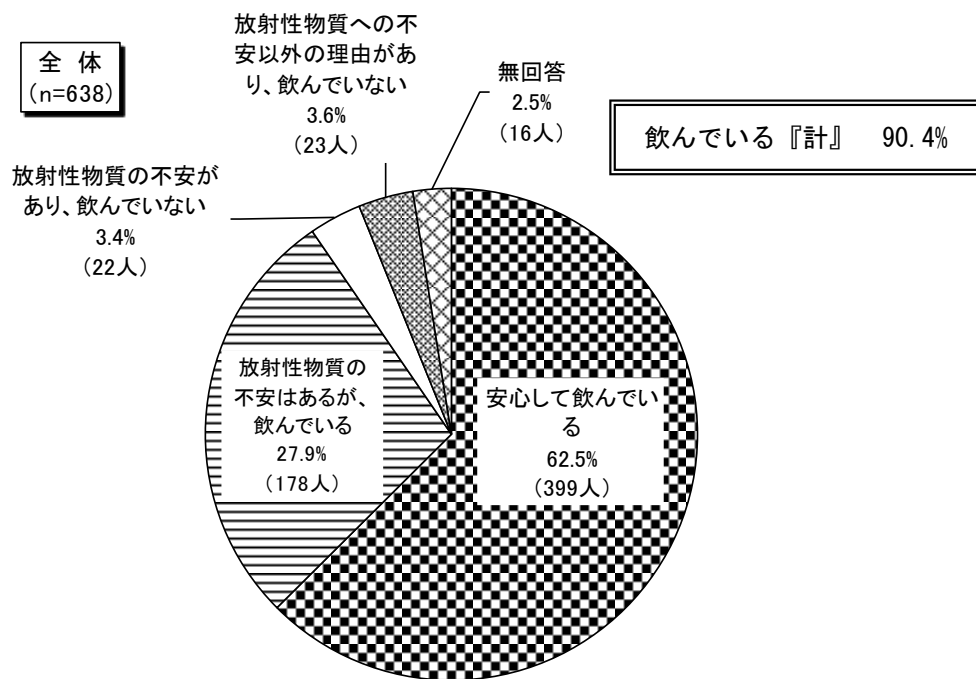
水に触れて親しんでいる場所は「身近な河川」(37.0%)が最も多く、3割台になっている。以下、「水田」(27.7%)、「公園」(23.7%)が2割台、「湖沼、沼」(18.5%)、「海」(16.3%)、「溪流、滝」(15.0%)、「水路、お堀」(12.7%)が1割台となっている。

また、「特にない」が20.8%となっている。

7. 水道水の放射性物質検査について

(1) 水道水を安心して飲んでいるかの有無

問 16 あなたは水道水を安心して飲んでいますか。
あてはまるもの1つに○をつけてください。

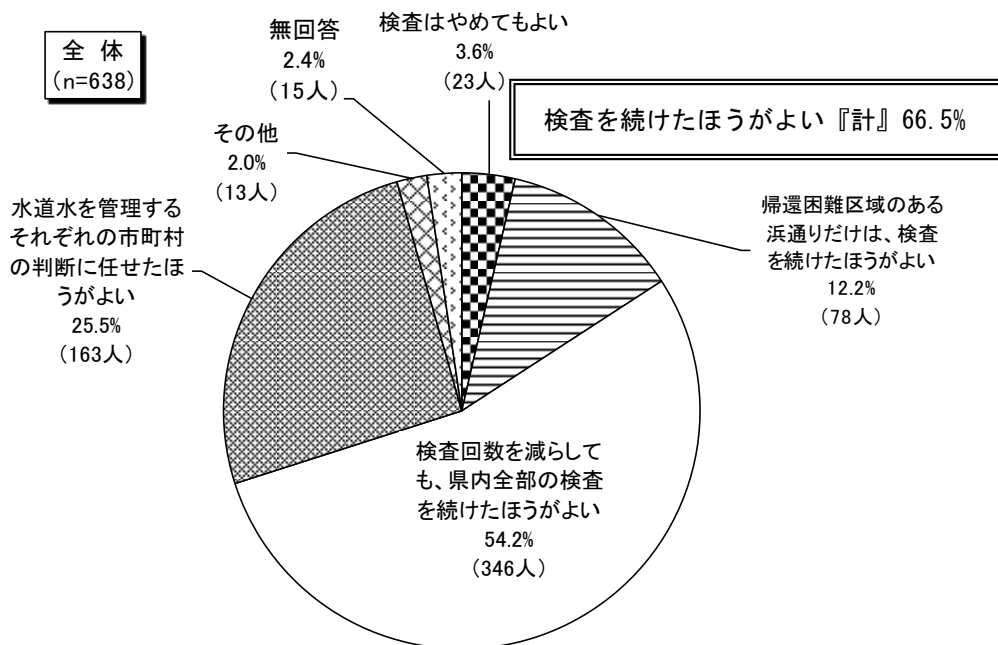


水道水を安心して飲んでいるかについては、「安心して飲んでいる」(62.5%)が最も多く、6割強となっている。これに「放射性物質の不安はあるが、飲んでいる」(27.9%)を合わせた『飲んでいる』計の割合は90.4%で、約9割となっている。

(2) 今後の「水道水の放射性物質検査」について

問17 今後の「水道水の放射性物質検査」のあり方について、あなたの考えに最も近いものは、次のうちどれですか。

あてはまるもの1つに○をつけてください。



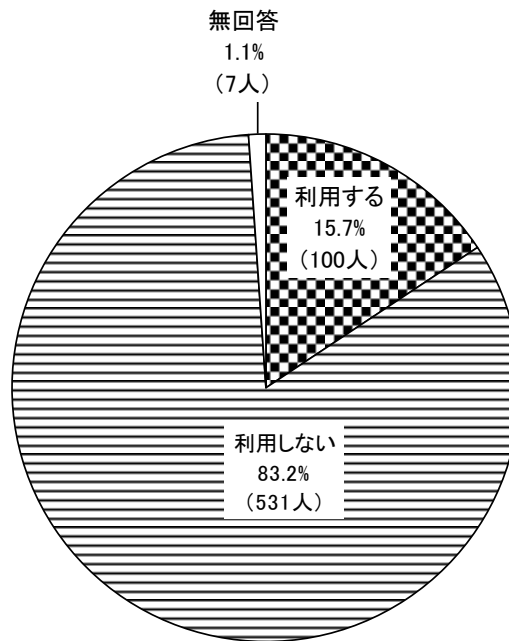
今後の「水道水の放射性物質検査」については、「検査回数を減らしても、県内全部の検査を続けたほうがよい」(54.2%)が最も多く、5割台となっている。これに「帰還困難区域のある浜通りだけは、検査を続けたほうがよい」(12.2%)を合わせた『検査を続けたほうがよい』計の割合は66.5%で、6割台となっている。以下、「水道水を管理するそれぞれの市町村の判断に任せたいほうがよい」(25.5%)、「検査はやめてもよい」(3.6%)の順となっている。

8. 公共交通について

(1) 路線バス利用の有無

問 18 あなたは、普段、路線バスを利用しますか。
いずれかに○をつけてください。

全体
(n=638)



普段、路線バスを利用するかについては、「利用しない」(83.2%)が8割強で、「利用する」(15.7%)は1割台となっている。

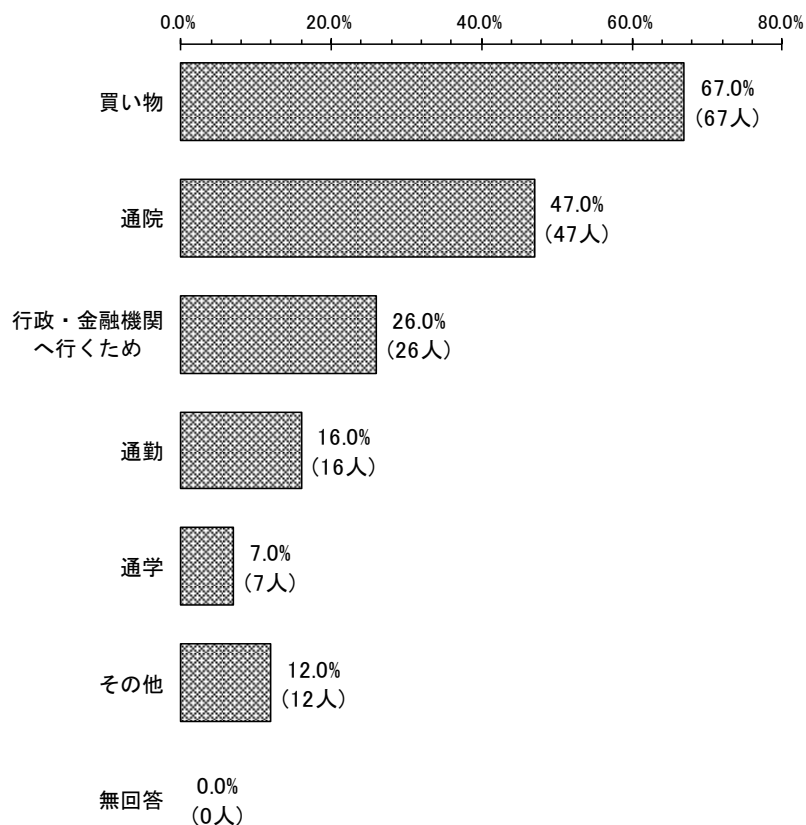
(2) 路線バスの利用目的

(問 18 で、「1 利用する」とお答えの方にお尋ねします。)

問 18-1 利用する目的は何ですか。

あてはまるものにもいくつかでも○をつけてください。(複数回答可)

全体
(n=100)



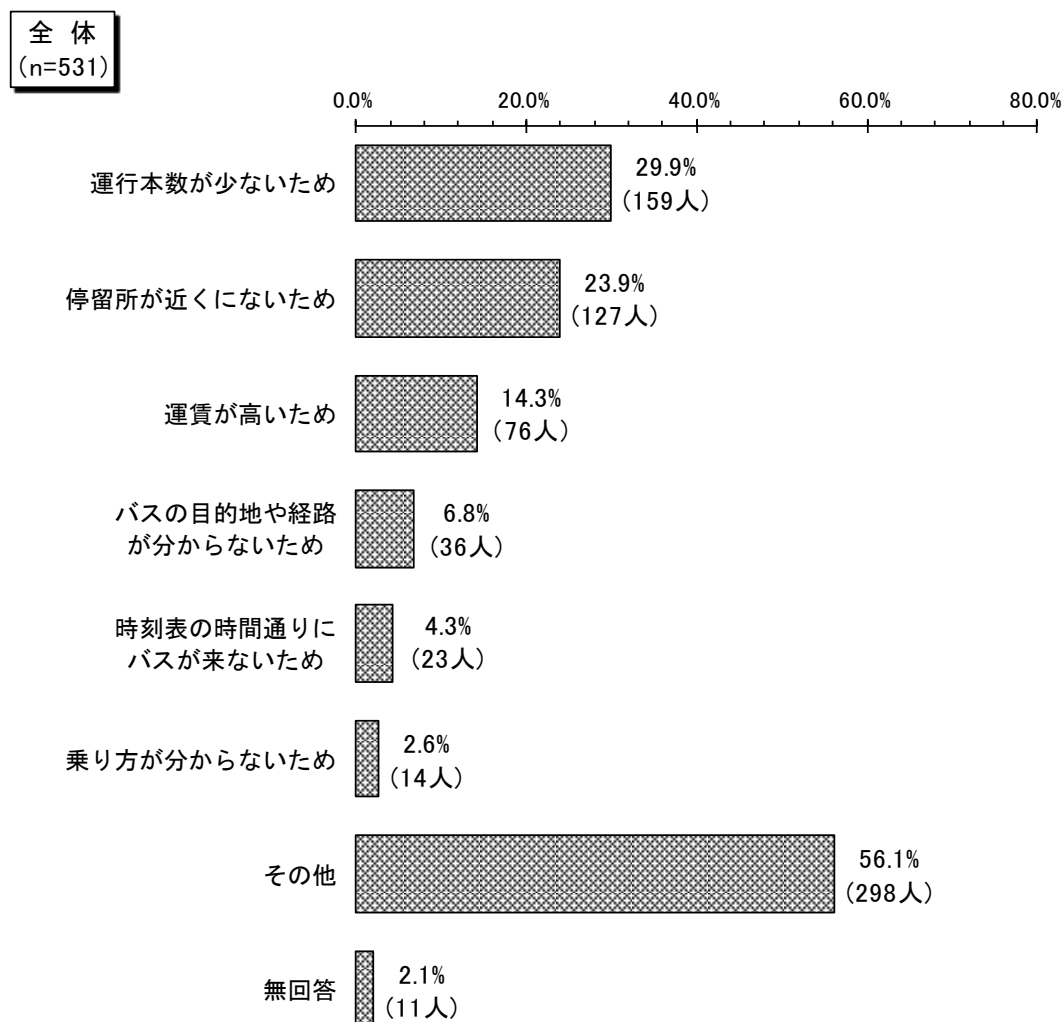
路線バスの利用目的は、「買い物」(67.0%)が最も多く、6割台になっている。以下、「通院」(47.0%)が4割台、「行政・金融機関へ行くため」(26.0%)が2割台、「通勤」(16.0%)が1割台となっている。

(3) 路線バスを利用しない理由

(問 18 で、「2 利用しない」とお答えの方にお尋ねします。)

問 18-2 利用しない理由は何ですか。

あてはまるものいくつかでも○をつけてください。(複数回答可)

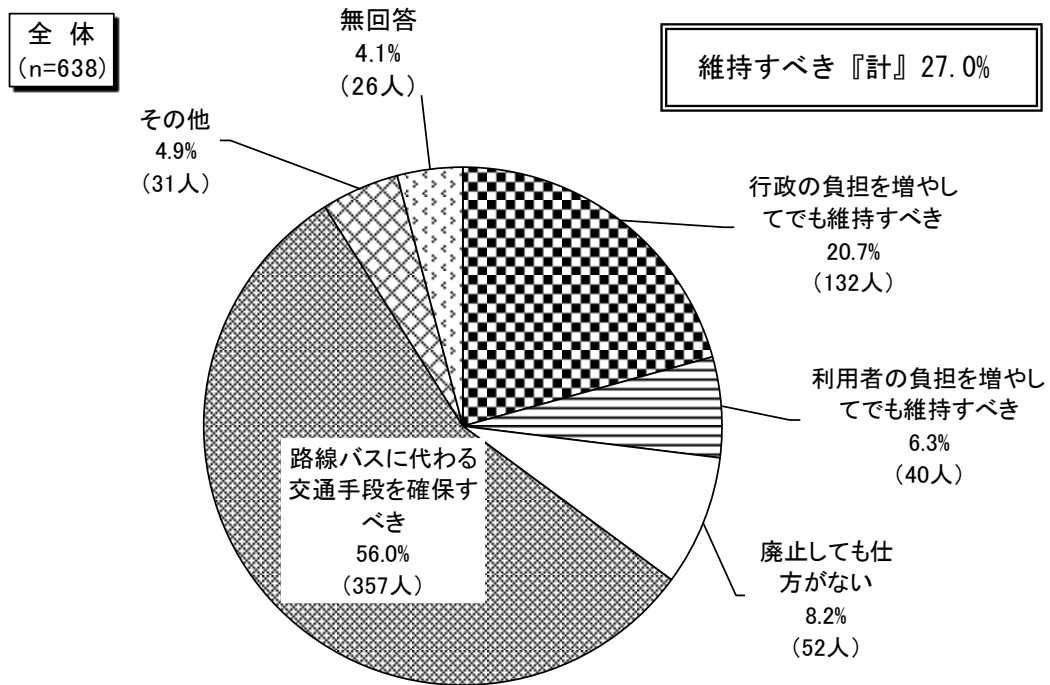


路線バスを利用しない理由については、「運行本数が少ないため」(29.9%)の割合が最も高く、約3割となっている。以下、「停留所が近くにないため」(23.9%)が2割台、「運賃が高いため」(14.3%)が1割台となっている。

また、「その他」(56.1%)の割合は、5割台となっている。

(4) 利用者の少ない路線バスについて

問 19 利用者の少ない路線バスのあり方について、あなたはどのように考えますか。
あてはまるもの1つに○をつけてください。



利用者の少ない路線バスについて、「路線バスに代わる交通手段を確保すべき」(56.0%)が最も多く、5割台となっている。「行政の負担を増やしてでも維持すべき」(20.7%)は約2割、これに「利用者の負担を増やしてでも維持すべき」(6.3%)を合わせた『維持すべき』計の割合は27.0%で、3割弱となっている。